

クアルテット界の至宝

常に音楽界の先頭に立つ比類なきアンサンブル

ジュリアード弦楽四重奏団

ヴァイオリン ロナルド・コープス

チェロ アストリッド・シュウィン

ヴィオラ モリー・カー

ヴァイオリン アレクサンドラ

Juliard

String Quartet

カヴァティーナ *Cavatina*

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第13番 op.130

Beethoven: String Quartet No. 13 in B flat major, op. 130

ヴィトマン:弦楽四重奏曲 第8番 (ベートーヴェン・スタディⅢ)*

Joerg Widmann: 8th String Quartet (Beethoven-Study III)

ヴィトマン:弦楽四重奏曲 第10番「カヴァティーナ」(ベートーヴェン・スタディⅤ)*

Joerg Widmann: Cavatina-10th String Quartet (Beethoven-Study V)

ベートーヴェン:弦楽四重奏のための《大フーガ》op.133

Beethoven: Great Fugue in B flat major, op. 133

*ジュリアード弦楽四重奏団委嘱作品

2023. **10/19** (木)

©Erin Baiano

7:00PM開演(6:30PM開場) 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

A ¥5,000 B ¥4,000 (税込/全席指定) 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22阪急西宮北口駅南改札口西側/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売

6/25
(日)

芸術文化センター
チケットオフィス

インターネット予約

※窓口での販売(残席がある場合)は6/27(火)より

0798-68-0255

(10:00AM - 5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

芸術文化センター会員
先行予約受付開始

6/23 (金)

※未就学児はご入場いただけません。
※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が
変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



兵庫県立
芸術文化センター



主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

Juilliard String Quartet

世界の頂点に君臨し続ける“アメリカの至宝”ジュリアード弦楽四重奏団。明確で美しいサウンド、唯一無二の表現力が織り成す息の合った演奏は、まさに奇跡といえましょう。

さて今回のプログラムも、常に音楽界の先頭に立ち続ける彼らの魅力をたっぷり堪能できる傑作がずらり。まずはベートーヴェン自身が涙を流したと伝わる後期弦楽四重奏曲の大作「第13番」。実はこの曲の初演時には、本プログラムの最後に演奏される《大フーガ》が終楽章に据えられていました。しかしながらこの《大フーガ》は、当時の演奏家にとっては極度に技術的な要求が高く、非常に難解であったことから、ベートーヴェンは泣く泣く別のフィナーレを書き下ろすことになったのだとか。現在では評価が逆転し、「ベートーヴェンの偉大な業績のひとつ」とも言われているこの2曲を、耳を惹き付けて離さない作品を生み出す現代屈指の作曲家・ドイツ生まれのヴィトマンによる「ベートーヴェン・スタディ」— 直訳すると「ベートーヴェン研究」を挟んで奏でるといふ、まさに“彼らにしか演奏できない”特別な構成でお届けします。

75年以上継承され続ける清新な“ジュリアード・スタイル”。ぜひ神戸女学院小ホールの極上な空間で、心ゆくまでお楽しみください。



©Erin Baiano

ジュリアード弦楽四重奏団 Juilliard String Quartet

アレタ・ズラ (ヴァイオリン)
Areta Zhulla, violin

ロナルド・コープス (ヴァイオリン)
Ronald Copes, violin

モーリー・カー (ヴィオラ)
Molly Carr, viola

アストリッド・シュウィーン (チェロ)
Astrid Schween, cello

堂々たる存在感、奇跡の“ジュリアード・サウンド”
ベートーヴェンの大曲を清新／濃密に奏でる



比類なき芸術性と不朽の活力で、ジュリアード弦楽四重奏団は世界中の観衆を魅了し続けている。1946年に創設、米紙ボストン・グローブで「我が国の弦楽四重奏団史上、最も重要な存在」と評された同団は、古典作品にたゆまぬ探究心を傾けると同時に、新しい作品にも果敢に取り組み、伝統を守りつつ大胆な挑戦をするという姿勢を貫いてきた。彼らが届けるのは常に、唯一無二の音楽。それは4人に共通する、作品に対する深い洞察と全身全霊の傾注、そして弦楽四重奏という芸術に潜む驚嘆を分かち合いたいという飽くなき好奇心の結実である。

2022/23シーズン、ジュリアード弦楽四重奏団は、イタリア、ドイツ、チェコを含むヨーロッパ・ツアーで始まった。ドイツの気鋭の作曲家イェルク・ヴィトマンの2つの弦楽四重奏曲は、ベートーヴェンの後期四重奏曲と並んで演奏されるよう作曲され、初演され、日本ツアーでも披露される。

多数の名盤を誇るその名高いディスコグラフィーに加え、2021年4月にはソニー・クラシカルからベートーヴェン、バルトーク、ドヴォルザーク

を収録したアルバムがリリースされ、高い評価を得た。さらに、ソニー・マスターワークスから2021年6月に創立75周年を記念したCD16枚によるセットBOX “The Early Juilliard Recordings” がリリースされた。

バルトーク、シェーンベルク、ドビュッシー、ラヴェル、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲はグラミー賞を受賞し、2011年、全米レコード芸術科学アカデミーからクラシック音楽のアンサンブルとして初めて生涯功労賞を授与されている。

各メンバーは教師としても優れており、ツアー中もマスタークラスや公開リハーサルを実施している。レジデンスであるジュリアード音楽院では弦楽および室内楽の教授を務めており、受講を希望する者が後を絶たない。毎年5月に開催している5日間に及ぶセミナーは国際的にも注目を集めている。また夏には、タンゲルウッド音楽祭では学生たちとともに弦楽四重奏のための集中講座を行っている。

《チケットご購入のお客様へお願い》

- ※新型コロナウイルス感染予防対策は、今後の状況により変更する可能性があります。最新の状況はウェブサイトをご確認いただきますようお願いいたします。
- ※芸術文化センターでのご購入は、お一人様4枚までとさせていただきます。
- ※やむを得ない事情により、公演の中止や、曲目等が変更される場合があります。予めご了承ください。



アクセス

